

普通科2年生（理系）



科学英語講演（サイエンスダイアログ）を実施しました！

3月12日（木）、普通科2年生（理系）を対象に「サイエンスダイアログ（科学英語講演）」を開催しました。サイエンスダイアログは、日本学術振興会のフェロースhip制度により世界各国から来日し日本の研究機関で研究を行っている若手外国人研究者を講師として高等学校等に派遣し、自身の研究や出身国に関する講義を英語で行うプログラムです。今回は、ドイツ出身の Lukas Fischer 先生（大阪大学D3センター所属）を講師としてお招きし、「What makes a glass a glass」という演題でご講演いただきました。講演の前半では、最初に先生の出身国であるドイツの歴史や文化についてお話いただきました。講演の後半では、古くから存在しながらも未だ謎の多い「ガラス」についてご講義をいただきました。ガラスはミクロなレベルで観察すると液体のように無秩序である一方、マクロな視点では固体として振る舞います。こうした性質の違いが生まれる理由について、AIを用いて解明を目指す研究の背景や研究結果を、Q&Aを交えながら生徒に問いかける先生の姿が印象的でした。講演後、生徒からは「ガラスがこんなにも身近にたくさんあると驚いた。高校の勉強だけでは知ることができなかった部分まで知ることができて貴重な体験ができた。」「物理学でもAIは使われていて、使わないとわからないこともあったことを聞いて、やっぱりAIを学ぶことは将来の仕事や研究に直結するんだとわかったから、AIの勉強を頑張りたい。」といった感想が寄せられました。



向陽防災科学講座（和大）を実施しました！

3月19日（木）、環境科学科1年生を対象に「向陽防災科学講座」を実施しました。和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センターの此松昌彦教授、太田和良教育研究アドバイザー、衆将倫客員准教授にご来校いただき、「人工衛星みちびきと通信できる！防災機器Q-ANPIを体験してみよう」と題して講座を行っていただきました。当日は日本版GPS衛星として有名な「人工衛星みちびき」と通信して、避難所の防災情報をやり取りできる衛星安否確認サービスQ-ANPI（キューアンピ）を使って、衛星を使った情報通信を体験しました。生徒たちは初めて触るQ-ANPIに興味津々なようすで受講することができました。

